

日中大学生の心理的不安に関する比較研究

高木秀明*・張 日昇**

A Comparative Study of the Anxiety between Japanese and Chinese College Students

Hideaki TAKAGI & Risheng ZHANG

Abstract

The purpose of this study is to investigate the anxieties, the self-acceptances and the ego-identities in Japanese and Chinese college students, and to clarify the relationships among their anxieties, self-acceptances and ego-identities. The subjects were 928 Japanese college students and 866 Chinese college students.

The following results were obtained:

- (1) Japanese college students had higher anxieties than Chinese college students.
- (2) The positive anxieties were higher than the negative anxieties in both Japanese and Chinese students.
- (3) Chinese students had higher self-acceptances than Japanese students.
- (4) The self-acceptances had positive correlations with the positive anxieties and negative correlations with the negative anxieties, and the self-denials had positive correlations with the negative anxieties in both Japanese and Chinese students.
- (5) About the ego-identity, there were more Japanese students in identity achievement, moratorium, or identity diffusion status than Chinese students. However, there were more Chinese students in identity achievement-foreclosure intermediate or foreclosure status than Japanese students.
- (6) Both Japanese and Chinese students in identity diffusion status had the highest negative anxieties and the lowest positive anxieties. And, the both students in identity achievement status had the highest positive anxieties.

青年についての心理学における研究を概観してみると、異なった国や文化圏に属する青年について、青年心理学研究一般に通用する同一の方法を用いて、青年の心理的発達

*心理学教室 (Dept. of Psychology)

**北京師範大学発展心理研究所 (Institute of Developmental Psychology, Beijing Normal University)

における社会的・文化的要因の影響を検討した研究は数えるほどしかなかった。日本と中国の青年の心理的特徴を心理学的に比較した研究もほとんど存在しない。これは、異文化心理学の方法論上の問題点や、実際に国際的な比較研究を進める上での困難さなどがその原因である。また、異文化間比較研究において違いがみられたとしても、その違いを何に帰せばよいのかが特定しにくいことも多い。このような状況下、われわれは1989年から日本と中国の青年について、その心理的特徴を自己意識や独立意識、対人関係などに関して調べ、比較研究してきた(高木・張, 1989, 1990a, 1990b, 1990c, 1992; 張・高木, 1989a, 1989b, 1989c, 1991, 1993)。そこから中国の青年は日本の青年よりも高い自尊感情や自己受容をもつこと、中国の青年の親子関係は日本の青年よりも密接であることなどが明らかになった。

青年期の心理的特徴には、性格の仮面性、反抗と依存、告白性と閉鎖性といったように、矛盾したものが多く、心の中にこのような対立、矛盾を多く抱えている。それゆえ、青年であるということは、多かれ少なかれ心理的不安に陥りがちな傾向を持っているといっても過言ではない。

従来の青年期における不安に関する研究では、その本来のネガティブな性質とは対照的にポジティブな面も注目され、積極的な意義が強調されてきた。依田(1963)、加藤(1964)、津留・西平(1968)は、人格の発達という観点から、積極的に不安のポジティブな側面を取り上げ、また、福井(1980)は、青年期の臨床的視点から、青年期の不安を取り上げているが、それらのいずれにおいても、青年の不安への真摯な取り組みによって、人間としての成長が促されると指摘されている。

山本(1992)は、青年期の不安の特質を、抑制不安と成長不安の観点から検討し、青年期(高校生)では、抑制不安よりも成長不安が上昇することを見出した。

本研究では、山本(1992)による成長不安と抑制不安に着目し、それらが日中の大学生でどのように異なるかについて検討することを目的とする。また、成長不安が青年の人間的成長にポジティブな意味を持ち、抑制不安はネガティブな意味を持つとされる点について、両不安と自己受容、自我同一性との関連を調べることにより検討することも目的とする。

方 法

1. 調査対象

日本：関東地方の国立大学3校、私立大学1校、関西地方の国立大学2校の1～4年生928名(男子415名、女子513名)

中国：曲阜、昆明、天津、西寧、聊城の師範大学5校の1～4年生866名(男子406名、女子460名)

2. 調査期間及び実施方法

1992年5月～7月に集団で調査を実施した。

3. 調査項目

(1) 不安

山本 (1992) が作成した不安測定項目 (2 尺度, 25 項目) を用いた。これは成長不安を測定する尺度 (10 項目) と抑制不安を測定する尺度 (15 項目) からなる。

評定は「全然そうではない」、「そうではない」、「どちらかといえばそうではない」、「どちらかといえばそうだ」、「かなりそうだ」、「まったくそのとおりだ」の 6 段階評定で行われ、それぞれの回答に対して 1～6 点の得点が与えられた。各尺度得点は各尺度を構成する項目の得点を合計し、それらを各項目数で割って算出した。具体的項目は付録に示されている。

(2) 自己受容

高木・徳永 (1989) が作成した自己受容測定項目 (4 尺度, 16 項目) を用いた。

尺度Ⅰ 「肯定的な自己認知に対する自己受容」 (4 項目)

尺度Ⅱ 「否定的な自己認知に対する自己受容」 (4 項目)

尺度Ⅲ 「肯定的な自己認知に対する自己拒否」 (4 項目)

尺度Ⅳ 「否定的な自己認知に対する自己拒否」 (4 項目)

評定は「あてはまらない」、「わずかにあてはまる」、「少しあてはまる」、「かなりあてはまる」、「とてもよくあてはまる」の 5 段階評定で行われ、それぞれの回答に対して 1～5 点の得点が与えられた。各尺度得点は各尺度を構成する項目の得点を合計し、それらを各項目数で割って算出した。日本語と中国語の具体的項目は高木・張 (1990b) に示されている。

(3) 自我同一性

加藤 (1983) が作成した測定項目 (12 項目) を用いた。

尺度Ⅰ 「現在の自己投入」 (4 項目)

尺度Ⅱ 「過去の危機」 (4 項目)

尺度Ⅲ 「将来の自己投入の希求」 (4 項目)

評定は「全然そうではない」、「そうではない」、「どちらかといえばそうではない」、「どちらかといえばそうだ」、「かなりそうだ」、「まったくそのとおりだ」の 6 段階評定で行われ、それぞれの回答に対して 1～6 点の得点が与えられた。各尺度得点の組合せにより、「同一性達成地位 (A 地位)」、「同一性達成一権威受容中間地位 (AF 地位)」、「権威受容地位 (F 地位)」、「積極的モラトリアム地位 (M 地位)」、「同一性拡散一積極的モラトリアム中間地位 (DM 地位)」、「同一性拡散地位 (D 地位)」という 6 種類の同一性地位が決定される。日本語と中国語の具体的項目は高木・張 (1990b) に示されている。

4. 結果の整理

(1) 度数分布

被験者の学年、性、年齢別の度数分布を調べた。

(2) 不安尺度, 不安項目における性差, 日中間差

不安尺度, 不安項目得点について, 平均及び標準偏差を求め, 性差, 日中間差を調べるためにt検定を行った。

(3) 自己受容における性差, 日中間差

自己受容の下位尺度について, 平均及び標準偏差を求め, 性差と日中間差を調べるためにt検定を行った。

(4) 自我同一性地位の度数分布

同一性地位の度数分布を求め, 性差と日中間差を調べるため χ^2 検定を行った。

(5) 自己受容と不安の関連

自己受容と不安との関連を調べるために, 両尺度の相関係数を求め, 男女間, 日中間の比較を行った。

(6) 自我同一性と自己受容, 不安との関連

自我同一性と自己受容, 不安との関連を調べるために, 自我同一性の各地位ごとに自己受容尺度, 不安尺度の得点を求め, 分散分析によって, 同一性地位間の相違を日中, 男女別に比較した。

結 果

1. 被験者の学年, 性, 年齢別の度数分布

被験者である日中大学生の学年, 性の内訳をTable 1, 年齢と性の内訳をTable 2に示した。日本の大学生男女込み928名, 中国の大学生男女込み866名である。

Table 1をみると, 日本の大学生の方は, 1, 2年生が被験者全体の8割弱を占め, 中国の大学生の方は, 1, 2, 3年生が中国の被験者の99%を占める。

Table 2によると, 日本の男子は18~20歳の年齢層が多く, 日本の男子被験者全体の8

Table 1 日中大学生の学年別, 性別の人数(括弧内は%)

学年	性	日 本		中 国	
1	男	218(52.5)	411(44.3)	112(27.6)	225(26.0)
	女	193(37.8)		113(24.6)	
2	男	115(27.7)	317(34.2)	94(23.2)	216(24.9)
	女	202(39.4)		122(26.5)	
3	男	67(16.1)	175(18.9)	198(48.3)	416(48.0)
	女	108(21.1)		220(47.8)	
4	男	15(3.6)	25(2.7)	4(1.0)	9(1.0)
	女	10(1.9)		5(1.1)	
合計	男	415(44.7)	928(100.0)	406(46.9)	866(100.0)
	女	513(55.3)		460(53.1)	

Table 2 日中大学生の年齢別、性別の人数(括弧内は%)

年齢	性	日 本		中 国	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)
17	男			1(0.2)	2(0.2)
	女			1(0.2)	
18	男	128(30.4)	258(27.8)	3(0.7)	13(1.5)
	女	132(25.7)		10(2.2)	
19	男	120(28.9)	289(31.1)	51(12.6)	126(14.5)
	女	169(32.9)		75(16.3)	
20	男	109(26.3)	248(26.7)	136(33.5)	312(36.0)
	女	139(27.1)		176(38.3)	
21	男	40(9.6)	98(10.6)	117(28.8)	253(29.2)
	女	58(11.3)		136(29.6)	
22	男	14(3.4)	27(2.9)	69(17.0)	123(14.2)
	女	13(2.5)		54(11.7)	
23	男	5(1.2)	7(0.8)	26(6.4)	33(3.8)
	女	2(0.4)		7(1.5)	
24	男	1(0.2)	1(0.1)	3(0.7)	4(0.5)
	女	0(0.0)		1(0.2)	
平均年齢	男	19.3	19.3	20.7	20.5
	女	19.3		20.4	
合計	男	415(44.7)	928(100.0)	406(46.9)	866(100.0)
	女	513(55.3)		460(53.1)	

割以上を占める。平均年齢は19.3歳である。日本の女子も18～20歳の年齢層が多く、日本の女子被験者全体のやはり8割以上を占める。平均年齢も19.3歳である。中国の大学生は男女共に20歳と21歳の年齢層が多く、中国の被験者全体の6割以上を占める。平均年齢は、男子が20.7歳、女子が20.4歳である。

全体を総括してみると、日本の大学生被験者の年齢は、18歳、19歳、20歳が8割以上を占め、中国の大学生被験者の年齢は、19歳、20歳、21歳、22歳が9割以上を占める。平均年齢は日本の大学生が19.3歳、中国の大学生が20.5歳である。中国の大学生の方が1歳程年齢が高い。

2. 不安における性差と日中間差

(1) 不安尺度

日本の大学生と中国の大学生の不安（成長不安と抑制不安）尺度得点、その性差、日中間差をTable 3に示した。

成長不安に関しては、男女共に有意な日中間差がみられ、日本の大学生の方が中国の

Table 3 日中大学生の不安尺度得点

		日 本		中 国		性 差		日中間差		成長-抑制不安間差				
		人数	男子	女子	男子	女子	日本	中国	男子	女子	日 本		中 国	
			405~ 406	508~ 509	375~ 381	422~ 445					男子	女子	男子	女子
I. 成長不安	M SD	4.57 0.72	4.53 0.68	4.39 0.58	4.35 0.60			***	***					
II. 抑制不安	M SD	3.01 0.91	2.96 0.83	2.60 0.75	2.80 0.79		***	***	**	***	***	***	***	

** P<0.01 *** P<0.001

大学生よりも有意に高かった。また、性差は日中共にみられなかった。

抑制不安に関しても、男女共に有意な日中間差がみられ、日本の大学生の方が中国の大学生よりも有意に高かった。性差は中国の大学生においてみられ、男子の抑制不安は女子よりも有意に低かった。

成長不安と抑制不安を比べると、いずれの群においても成長不安の方が抑制不安よりも有意に高かった。

(2) 不安項目

日中大学生の不安をもっと詳しく比較するために、項目別の不安項目得点と、その性差及び日中間の差をTable 4に、それをプロフィールにしたものをFig. 1, Fig. 2に示す。

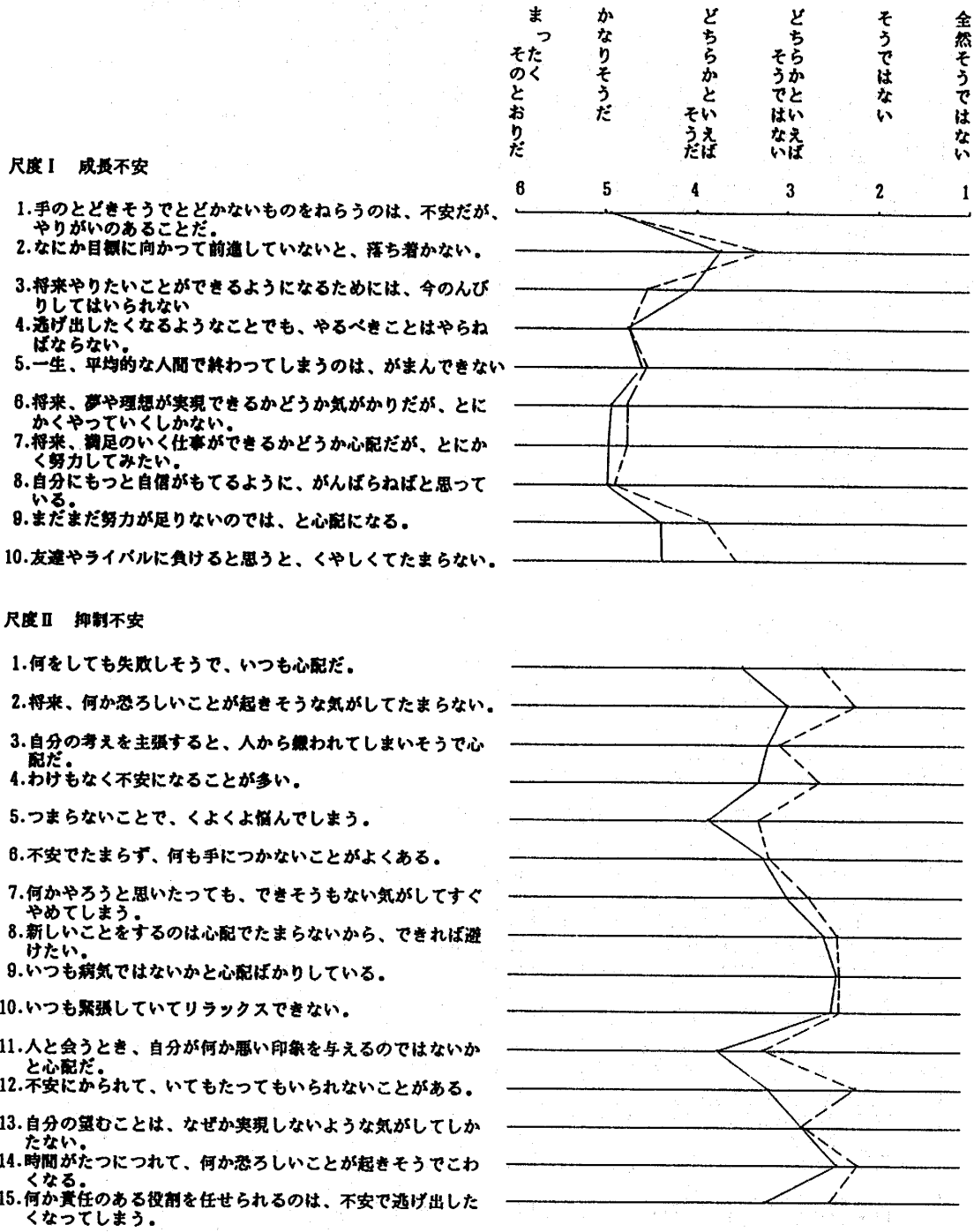
まず性差を検討すると、日本の大学生においては、成長不安に2項目、抑制不安に4項目で有意な性差がみられる。成長不安においては、日本の大学生男子は女子よりも「一生、平均的な人間で終わってしまうのは、がまんできない」という傾向が有意に高く、また、女子は男子よりも「自分にもっと自信が持てるように、がんばらねばと思っている」という傾向が有意に高い。一方、抑制不安においては、日本の大学生女子は男子よりも、「将来、何か恐ろしいことが起きそうな気がしてたまらない」、「いつも病気ではないかと心配ばかりしている」、「不安にかられて、いてもたってもいられないことがある」という傾向が有意に低く、「つまらないことで、くよくよ悩んでしまう」という傾向が有意に高くなっている。

中国の大学生においては、成長不安に2項目、抑制不安に8項目で有意な性差がみられる。中国の大学生男子は女子よりも、「一生、平均的な人間で終わってしまうのは、がまんできない」、「将来、夢や理想が実現できるかどうか気がかりだが、とにかくやっていくしかない」という傾向が有意に高い。一方、抑制不安においては、中国の大学生男子は女子よりも、「何をしても失敗しそうで、いつも心配だ」、「自分の考えを主張すると、人から嫌われてしまいそうで心配だ」、「わけもなく不安になることが多い」、「つまらないことで、くよくよ悩んでしまう」、「不安でたまらず、なにも手につかないことがよくある」、「なにかやろうと思いたっても、できそうな気がしてすぐやめてしまう」、「新しいことをするのは心配でたまらないから、できれば避けたい」、「自分の望むことは、なぜか実現しないような気がしてしかたない」という傾向が有意に低かった。

Table 4 日中大学生の不安(成長不安と抑制不安)項目得点

		日 本		中 国		性 差		日中間差		
		人 数	男子 410~ 414	女子 511~ 513	男子 397~ 406	女子 451~ 460	日本	中国	男子	女子
成 長 不 安	1.手のとどきそうでとどかないものをねらうのは、不安だが、やりがいのあることだ。	M SD	4.96 0.99	4.86 0.94	5.00 0.86	4.95 0.94				
	2.なにか目標に向かって前進していないと、落ち着かない。	M SD	3.73 1.38	3.69 1.24	3.28 1.40	3.45 1.31			***	**
	3.将来やりたいことができるようになるためには、今のんびりしてはられない。	M SD	4.05 1.40	4.13 1.27	4.52 1.09	4.48 1.14			***	***
	4.逃げ出したくなるようなことでも、やるべきことはやらねばならない。	M SD	4.76 1.08	4.80 0.95	4.75 1.14	4.66 1.14				
	5.一生、平均的な人間で終わってしまうのは、がまんできない。	M SD	4.60 1.40	4.26 1.34	4.52 1.59	4.16 1.54	***	***		
	6.将来、夢や理想が実現できるかどうか気がかりだが、とにかくやってみていくしかない。	M SD	4.93 1.04	4.94 0.92	4.75 1.23	4.59 1.19		*	*	***
	7.将来、満足のいく仕事ができるかどうか心配だが、とにかく努力してみたい。	M SD	4.96 0.95	5.06 0.89	4.74 1.19	4.80 1.16			**	***
	8.自分にもっと自信がもてるように、がんばらねばと思っている。	M SD	4.96 1.09	5.10 0.96	4.88 1.10	4.86 1.09	*			***
	9.まだまだ努力が足りないのでは、と心配になる。	M SD	4.37 1.28	4.26 1.19	3.83 1.44	3.84 1.41			***	***
	10.友達やライバルに負けると思うと、くやしくてたまらない。	M SD	4.37 1.31	4.24 1.25	3.53 1.56	3.70 1.50			***	***
抑 制 不 安	1.何をしても失敗しそうで、いつも心配だ。	M SD	3.45 1.40	3.39 1.25	2.58 1.37	2.92 1.31		***	***	***
	2.将来、何か恐ろしいことが起きそうな気がしてたまらない。	M SD	2.94 1.48	2.59 1.29	2.21 1.31	2.32 1.28	***		***	***
	3.自分の考えを主張すると、人から嫌われてしまいそうで心配だ。	M SD	3.16 1.40	3.21 1.27	3.03 1.45	3.22 1.35		*		
	4.わけもなく不安になることが多い。	M SD	3.24 1.46	3.39 1.39	2.59 1.42	2.86 1.45		**	***	***
	5.つまらないことで、くよくよ悩んでしまう。	M SD	3.81 1.52	4.02 1.39	3.25 1.49	3.62 1.42	*	***	***	***
	6.不安でたまらず、何も手につかないことがよくある。	M SD	3.20 1.48	3.19 1.39	3.14 1.43	3.46 1.46		***		**
	7.何かやろうと思いたっても、できそうもない気がしてすぐやめてしまう。	M SD	2.93 1.27	3.01 1.13	2.69 1.28	2.91 1.19		**	**	
	8.新しいことをするのは心配でたまらないから、できれば避けたい。	M SD	2.51 1.18	2.63 1.08	2.38 1.25	2.69 1.22		***		
	9.いつも病気ではないかと心配ばかりしている。	M SD	2.39 1.39	1.99 1.13	2.35 1.37	2.40 1.42	***			***
	10.いつも緊張していてリラックスできない。	M SD	2.42 1.21	2.31 1.15	2.33 1.26	2.26 1.28				
	11.人と会うとき、自分が何か悪い印象を与えるのではないかと心配だ。	M SD	3.69 1.39	3.63 1.36	3.19 1.47	3.24 1.51			***	***
	12.不安にかられて、いてもたってもいられないことがある。	M SD	3.12 1.48	2.92 1.34	2.18 1.23	2.14 1.15	*		***	***
	13.自分の望むことは、なぜか実現しないような気がしてしかたない。	M SD	2.75 1.35	2.68 1.23	2.77 1.28	3.10 1.23		***		***
	14.時間がたつにつれて、何か恐ろしいことが起きそうでこわくなる。	M SD	2.37 1.22	2.24 1.16	2.12 1.19	2.19 1.25			**	
	15.何か責任のある役割を任せられるのは、不安で逃げ出したくなってしまいます。	M SD	3.13 1.38	3.19 1.25	2.44 1.22	2.59 1.29			***	***

* P < 0.05 ** P < 0.01 *** P < 0.001



日本の大学生男子 ———— 中国の大学生男子 - - - - -

Fig. 1 日中大学生男子の不安(成長不安と抑制不安)プロフィール

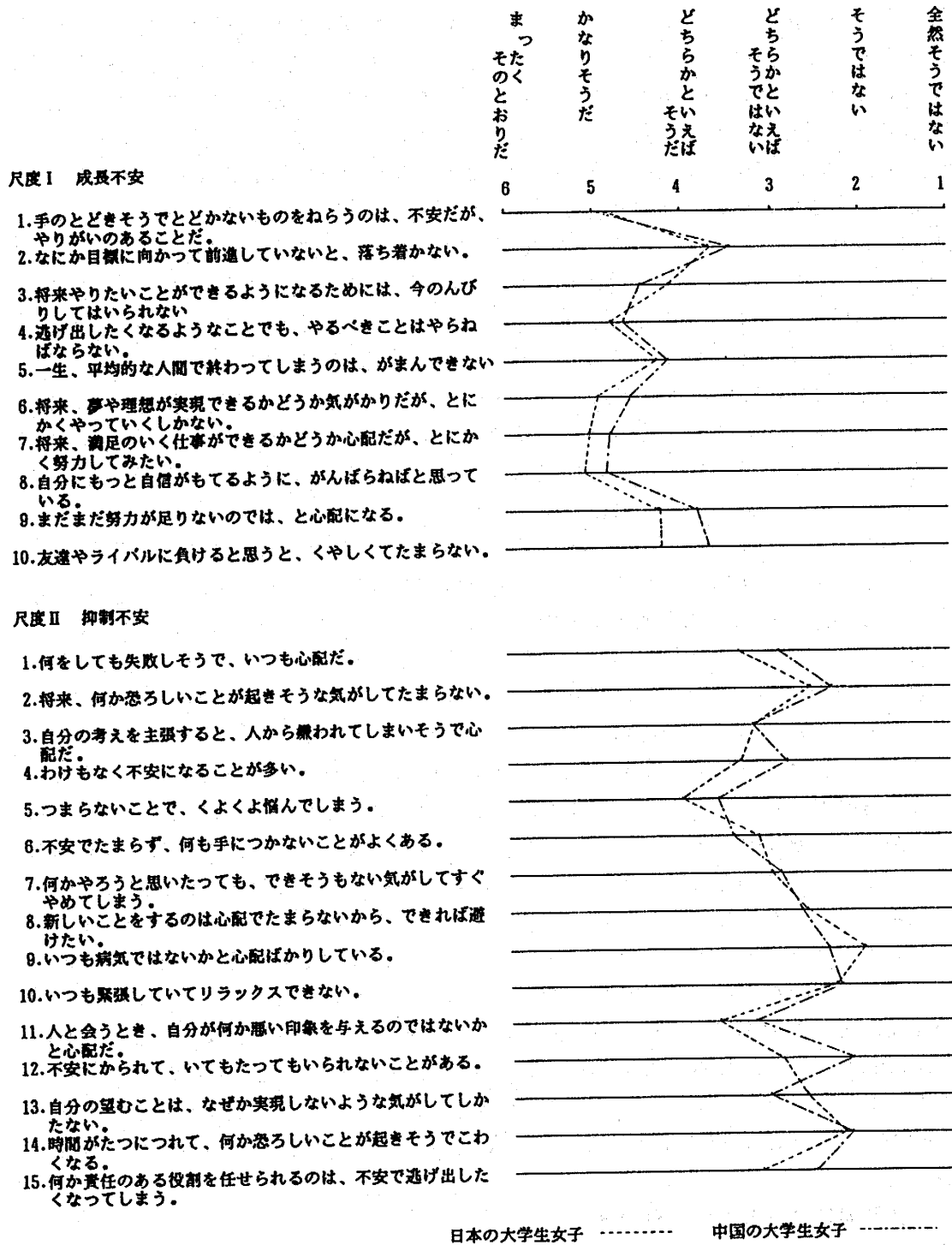


Fig. 2 日中大学生女子の不安(成長不安と抑制不安)プロフィール

次に、日中間の差を検討する。男子においては、成長不安に6項目、抑制不安に9項目で有意な日中間差がみられる。日本の大学生男子は中国の大学生男子よりも、「なにか目標に向かって前進していないと、落ち着かない」、「将来、夢や理想が実現できるかどうか気がかりだが、とにかくやってみよう」、「将来、満足のいく仕事ができるかどうか心配だが、とにかく努力してみたい」、「まだまだ努力が足りないのでは、と心配になる」、「友達やライバルに負けると思うと、くやしくてたまらない」という傾向が有意に高く、また、中国の大学生男子は日本の大学生男子よりも、「将来やりたいことができるようになるためには、今のんびりしてはいられない」という傾向が有意に高かった。一方、抑制不安においては、中国の大学生男子は日本の大学生男子よりも、「何をしても失敗しそうで、いつも心配だ」、「将来、何か恐ろしいことが起きそうな気がしてたまらない」、「わけもなく不安になることが多い」、「つまらないことで、くよくよ悩んでしまう」、「人とか会ったとき、自分がなにか悪い印象を与えるのではないかと心配だ」、「不安にかられて、いてもたってもいられないことがある」、「時間がたつにつれて、なにか恐ろしいことが起きそうでこわくなる」、「なにか責任のある役割を任せられるのは、不安で逃げ出したいになってしまう」という傾向が有意に低かった。

女子においては、成長不安に7項目、抑制不安に10項目で有意な日中間差がみられる。日本の大学生女子は中国の大学生女子よりも、「なにか目標に向かって前進していないと、落ち着かない」、「将来、夢や理想が実現できるかどうか気がかりだが、とにかくやってみよう」、「将来、満足のいく仕事ができるかどうか心配だが、とにかく努力してみたい」、「自分にもっと自信が持てるように、がんばらねばと思っている」、「まだまだ努力が足りないのでは、と心配になる」、「友達やライバルに負けると思うと、くやしくてたまらない」という傾向が有意に高く、また、中国の大学生女子は日本の大学生女子よりも、「将来やりたいことができるようになるためには、今のんびりしてはいられない」という傾向が有意に高かった。一方、抑制不安においては、中国の大学生女子は日本の大学生女子よりも「何をしても失敗しそうで、いつも心配だ」、「将来、何か恐ろしいことが起きそうな気がしてたまらない」、「わけもなく不安になることが多い」、「つまらないことで、くよくよ悩んでしまう」、「人とか会ったとき、自分がなにか悪い印象を与えるのではないかと心配だ」、「不安にかられて、いてもたってもいられないことがある」、「なにか責任のある役割を任せられるのは、不安で逃げ出したいになってしまう」という傾向が有意に低く、また、日本の大学生女子は中国の大学生女子よりも、「不安でたまらず、なにも手につかないことがよくある」、「いつも病気ではないかと心配ばかりしている」、「自分の望むことは、なぜか実現しないような気がしてしかたない」という傾向が有意に低かった。

3. 自己受容における性差と日中間差

日本の大学生と中国の大学生の自己受容尺度の性差と日中間差をTable 5に示した。

まず、性差について述べる。日本の大学生では尺度IVに性差がみられた。中国の大学

Table 5 日中大学生の自己受容尺度得点

		日本		中国		性差		日中間差	
		男子	女子	男子	女子	日本	中国	男子	女子
		人数	405~ 412	505~ 512	391~ 399	450~ 456			
I. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M	3.79	3.78	3.87	4.02		**		***
	SD	0.82	0.74	0.81	0.77				
II. 否定的な自己認知に対する自己受容	M	3.19	3.18	3.65	3.72			***	***
	SD	0.99	0.92	0.82	0.85				
III. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M	1.99	1.99	1.77	1.69			***	***
	SD	0.85	0.82	0.60	0.66				
IV. 否定的な自己認知に対する自己拒否	M	3.12	3.44	1.91	2.21	***	***	***	***
	SD	0.97	0.90	0.79	0.83				

** P<0.01 *** P<0.001

生では尺度Ⅰと尺度Ⅳに性差がみられた。

尺度Ⅰについては、日本の大学生では有意な性差がみられず、大学生男女共に肯定的な自己を受容する傾向がある。中国の大学生では、1%水準の有意な性差がみられ、大学生女子は大学生男子よりも肯定的な自己を受容することがわかる。

尺度Ⅱについては、日本の大学生では有意な性差がみられない。中国の大学生でも有意な性差がみられないが、男女共に否定的な自己を受容することがわかる。

尺度Ⅲについては、日本の大学生では、性差がみられず、男女共に肯定的な自己をあまり拒否しない傾向がある。中国の大学生でも、有意な性差がみられず、男女共に肯定的な自己を拒否しないことがわかる。

尺度Ⅳについては、日中大学生ではともに有意な性差がみられた。日本の大学生でも、中国の大学生でも、女子の方が、男子よりも否定的な自己を拒否する傾向が強いことが示されている。

次に、日中間差について述べる。日本の大学生男子と中国の大学生男子との間に、尺度Ⅱ、尺度Ⅲ、尺度Ⅳに有意な差が認められた。日本の大学生女子と中国の大学生女子との間には、自己受容のすべての尺度において、有意な差が認められた。

尺度Ⅰについては、中国の大学生女子は、日本の大学生女子よりも肯定的な自己を受容していることがわかる。

尺度Ⅱについては、中国の大学生男女は、日本の大学生男女よりも否定的な自己を受容していることがわかる。

尺度Ⅲについては、中国の大学生男女は、日本の大学生男女よりも肯定的な自己を拒否しないことがわかる。

尺度Ⅳについては、日本の大学生男女は否定的な自己をやや拒否するが、中国の大学生男女は否定的な自己を拒否しないことがわかる。

4. 自我同一性地位の度数分布

日本の大学生男女と中国の大学生男女の同一性地位の度数分布をTable 6に示した。日

Table 6 日中大学生の同一性地位の分布

		日 本		中 国		性 差		日中間差	
		男子	女子	男子	女子	日本	中国	男子	女子
同一性達成地位 (A地位)	人数 %	51 12.5	42 8.2	28 7.2	31 6.9				
同一性達成-権威 受容中間地位 (AF地位)	人数 %	64 15.7	50 9.8	90 23.2	68 15.1				
権威受容地位 (F地位)	人数 %	12 2.9	8 1.6	26 6.7	17 3.8				
積極的モトリウム地位 (M地位)	人数 %	43 10.6	72 14.1	13 3.4	21 4.7	**	**	***	***
同一性拡散-積極 的モトリウム中間地位 (DM地位)	人数 %	208 51.1	296 57.9	223 57.5	290 64.4				
同一性拡散地位 (D地位)	人数 %	29 7.1	43 8.4	8 2.1	23 5.1				
合 計	人数 %	407 100.0	511 100.0	388 100.0	450 100.0				

** P<0.01 *** P<0.001

中の大学生男女共にDM地位の者が過半数を占めている。

まず性差については、日中共に有意な性差がみられた。日本の大学生では、A地位とAF地位は男子の方が女子よりも多く、M地位とDM地位は女子の方が男子よりも多い。中国の大学生では、AF地位とF地位は男子の方が女子よりも多く、DM地位とD地位は女子の方が男子よりも多い。

つぎに日中間差については、大学生の男女ともに日中間で有意差がみられた。A地位、M地位とD地位では、男女ともに日本の方が中国より多かった。一方、AF地位、F地位、DM地位では、男女ともに中国の方が日本より多かった。

5. 自己受容と不安の関連

自己受容下位尺度と不安下位尺度との相関係数を日中大学生男女別に求めた結果を、Table 7に示した。

成長不安と抑制不安は、自己受容との間に異なる関連を示した。成長不安は、どの群においても「肯定的な自己認知に対する自己受容」と有意な正の相関を示し、中国の大学生女子を除いた3群においては「否定的な自己認知に対する自己受容」とも有意な正の相関を示した。また、2種類の自己拒否との間にはほとんどの群において有意な相関がみられなかった。

一方、抑制不安は、どの群においても「否定的な自己認知に対する自己拒否」と、「肯定的な自己認知に対する自己拒否」との間に有意な正の相関を示し、「否定的な自己認知に対する自己受容」とは有意な負の相関を示した。また、日本の大学生男女においては、「肯定的な自己認知に対する自己受容」との間にも有意な負の相関を示した。

Table 7 日中大学生の自己受容尺度と不安尺度との相関係数

		日 本				中 国			
		男 子		女 子		男 子		女 子	
		成長不安	抑制不安	成長不安	抑制不安	成長不安	抑制不安	成長不安	抑制不安
人数		369		484		308		375	
自 己 受 容	I. 肯定的な自己認知に対する自己受容	*** .37	*** -.21	*** .31	*** -.16	*** .25	.02	*** .24	*** -.06
	II. 否定的な自己認知に対する自己受容	*** .21	*** -.45	*** .15	*** -.39	*** .20	*** -.19	.10	*** -.34
	III. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	-.10	*** .48	-.04	*** .45	.00	*** .33	.00	*** .35
	IV. 否定的な自己認知に対する自己拒否	.09	*** .66	*** .19	*** .62	.04	*** .57	.01	*** .58

*** p<0.001

6. 各同一性地位における自己受容, 不安尺度得点

(1) 日本の大学生男子の自己受容, 不安尺度得点 (Table 8)

自己受容においては, 尺度Iについては, A地位が最も高く, 次いでAF地位, F地位, M地位, DM地位の順であり, 最も低いのがD地位であった。A地位はM地位, DM地位, D地位との間に有意な差があった。また, AF地位はDM地位, D地位との間に有意な差があった。

尺度IIについては, AF地位が最も高く, 次いでA地位, F地位, M地位, DM地位の順であり, 最も低いのがD地位であった。D地位はM地位以外のすべての地位との間に

Table 8 各同一性地位における自己受容, 不安尺度得点(日本の大学生男子)

		同 一 性 地 位						同 一 性 地 位 間 の 差																
		人数	A 49~ 51	AF 62~ 64	F 11~ 12	M 41~ 43	DM 201~ 207	D 28~ 29	A/ AF	A/ F	A/ M	A/ DM	A/ D	AF/ M	AF/ DM	AF/ D	F/ M	F/ DM	F/ D	M/ DM	M/ D	DM/ D		
自 己 受 容	I. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M SD	4.20 0.76	4.07 0.72	4.00 0.60	3.76 0.89	3.63 0.76	3.46 1.09		*	***	***	***	***	***	***								
	II. 否定的な自己認知に対する自己受容	M SD	3.55 1.16	3.61 0.83	3.52 0.79	3.11 1.11	3.04 0.93	2.65 0.92		*	***	***	*	***	***			*					*	
	III. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M SD	1.97 1.02	1.46 0.50	1.33 0.53	1.95 0.83	2.14 0.78	2.51 1.12	***	*			***	***	***	***	*	***	***			***	*	
	IV. 否定的な自己認知に対する自己拒否	M SD	3.15 1.06	2.79 1.02	2.68 0.84	3.15 1.01	3.20 0.91	3.33 0.98						***	*									
不 安	I. 成長不安	M SD	5.16 0.51	4.85 0.69	4.78 0.36	4.84 0.64	4.36 0.63	3.96 0.88	*	*	***	***	***	***	***	***	*	***	***	***	***	***	***	
	II. 抑制不安	M SD	2.83 0.94	2.58 0.90	2.53 0.73	2.90 0.88	3.18 0.85	3.21 0.99			*			***	***	*								

* P<0.05 ** P<0.01

有意な差があり、さらに、DM地位は、A地位、AF地位との間に、M地位も、A地位、AF地位との間に有意な差があった。

尺度Ⅲについては、D地位が最も高く、次いでDM地位、A地位、M地位、AF地位の順であり、最も低いのがF地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差があり、さらに、DM地位、A地位、M地位は、いずれもAF地位、F地位との間に有意な差があった。

尺度Ⅳについては、D地位が最も高く、次いでDM地位、A地位とM地位、AF地位の順であり、最も低いのがF地位であった。AF地位は、DM地位、D地位との間に有意な差があった。

不安においては、成長不安については、A地位が最も高く、次いでAF地位、M地位、F地位、DM地位の順であり、最も低いのがD地位であった。A地位はF地位を除いた他のすべての地位との間に有意な差があり、さらに、DM地位とD地位は、AF地位、F地位、M地位との間にもそれぞれ有意な差があった。また、D地位とDM地位の間にも有意な差があった。

抑制不安については、D地位が最も高く、次いでDM地位、M地位、A地位、AF地位の順であり、最も低いのがF地位であった。DM地位は、A地位、AF地位、F地位との間に有意な差があり、また、D地位とAF地位の間にも有意な差があった。

(2) 日本の大学生女子の自己受容、不安尺度得点 (Table 9)

自己受容においては、尺度Ⅰについては、F地位が最も高く、次いでA地位、M地位、AF地位、DM地位の順であり、最も低いのがD地位であった。D地位はA地位、AF地位、M地位との間に、DM地位もA地位、AF地位、M地位との間に有意な差があった。

Table 9 各同一性地位における自己受容、不安尺度得点(日本の大学生女子)

		同一性地位						同一性地位間の差									
		人数	A 40~ 42	AF 49~ 50	F 8	M 72	DM 290~ 295	D 42~ 43	A / DM	A / D	AF / M	AF / DM	AF / D	F / D	M / DM	M / D	DM / D
自 己 受 容	I. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M SD	4.07 0.74	3.92 0.68	4.09 0.50	4.00 0.70	3.69 0.75	3.52 0.72	**	**	*	*			**	**	
	II. 否定的な自己認知に対する自己受容	M SD	3.53 0.97	3.65 0.87	3.28 0.93	3.23 0.90	3.09 0.89	2.68 0.81	**	**	*	**	**			**	**
	III. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M SD	1.82 0.73	1.83 0.78	1.75 0.82	1.98 0.87	1.98 0.77	2.56 0.97		**			**	*		**	**
	IV. 否定的な自己認知に対する自己拒否	M SD	3.37 0.84	3.30 0.94	3.38 0.79	3.58 1.02	3.36 0.88	3.95 0.69		**			**			*	**
不 安	I. 成長不安	M SD	5.04 0.52	4.94 0.49	4.66 0.57	5.01 0.55	4.37 0.60	3.91 0.68	**	**	**	**	**	**	**	**	**
	II. 抑制不安	M SD	2.77 0.75	2.69 0.70	2.76 0.77	2.95 0.98	2.99 0.81	3.30 0.75		**	*	**			*	*	

* P<0.05 ** P<0.01

尺度Ⅱについては、AF地位が最も高く、次いでA地位、F地位、M地位、DM地位の順であり、最も低いのがD地位であった。D地位はF地位を除いた他のすべての地位との間に有意な差があり、さらに、DM地位は、A地位、AF地位との間に有意な差があり、AF地位とM地位の間にも有意な差があった。

尺度Ⅲについては、D地位が最も高く、次いでDM地位とM地位、AF地位、A地位の順であり、最も低いのがF地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差があった。

尺度Ⅳについては、D地位が最も高く、次いでM地位、F地位、A地位、DM地位の順であり、最も低いのがAF地位であった。D地位はF地位を除いた他のすべての地位との間に有意な差があった。

不安においては、成長不安については、A地位が最も高く、次いでM地位、AF地位、F地位、DM地位の順であり、最も低いのがD地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差があり、さらに、DM地位は、A地位、AF地位、M地位との間にも有意な差があった。

抑制不安については、D地位が最も高く、次いでDM地位、M地位、A地位、F地位の順であり、最も低いのがAF地位であった。D地位はF地位を除いた他のすべての地位との間に有意な差があり、また、AF地位とDM地位の間にも有意な差があった。

(3) 中国の大学生男子の自己受容、不安尺度得点 (Table10)

自己受容においては、尺度Ⅰについては、F地位が最も高く、次いでA地位、DM地位、M地位、AF地位、D地位の順であるが、各地位の間には有意な差がなかった。

尺度Ⅱについては、A地位が最も高く、次いでAF地位、F地位、M地位、DM地位の

Table10 各同一性地位における自己受容、不安尺度得点(中国の大学生男子)

		同一性地位						同一性地位間の差								
		人数	A	AF	F	M	DM	D	A / DM	A / D	AF / M	AF / DM	AF / D	F / D	M / D	DM / D
			26~28	83~89	23~26	11~13	205~222	6~8								
自己受容	Ⅰ. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M SD	3.95 0.80	3.77 0.87	4.01 0.81	3.83 0.77	3.89 0.76	3.72 1.33								
	Ⅱ. 否定的な自己認知に対する自己受容	M SD	4.03 0.69	3.82 0.77	3.67 0.80	3.66 0.60	3.59 0.82	2.97 0.81	*	**	*	**	*		*	
	Ⅲ. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M SD	1.69 0.62	1.73 0.52	1.63 0.53	1.85 0.80	1.78 0.59	2.38 0.68		**			**	**	*	**
	Ⅳ. 否定的な自己認知に対する自己拒否	M SD	1.74 0.69	1.58 0.58	1.77 0.73	1.96 0.82	2.07 0.80	2.50 1.20		*		**	**	*		
不安	Ⅰ. 成長不安	M SD	4.61 0.47	4.56 0.58	4.47 0.53	4.57 0.50	4.29 0.59	3.55 0.46	*	**		**	**	**	**	**
	Ⅱ. 抑制不安	M SD	2.45 0.64	2.26 0.63	2.49 0.74	2.76 0.40	2.76 0.75	2.96 1.03			*	**	*			

* P<0.05 ** P<0.01

順であり、最も低いのがD地位であった。D地位はM地位を除いた他のすべての地位との間に有意な差があり、さらに、DM地位は、A地位、AF地位との間にも有意な差があった。

尺度Ⅲについては、D地位が最も高く、次いでM地位、DM地位、AF地位、A地位の順であり、最も低いのがF地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差があった。

尺度Ⅳについては、D地位が最も高く、次いでDM地位、M地位、F地位、A地位の順であり、最も低いのがAF地位であった。D地位は、A地位、AF地位、F地位との間に有意な差があり、また、AF地位とDM地位の間にも有意な差があった。

不安においては、成長不安については、A地位が最も高く、次いでM地位、AF地位、F地位、DM地位の順であり、最も低いのがD地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差があり、さらに、DM地位は、A地位、AF地位との間にも有意な差があった。

抑制不安については、D地位が最も高く、次いでDM地位とM地位、F地位、A地位の順であり、最も低いのがAF地位であった。AF地位は、D地位、DM地位、M地位との間に有意な差があった。

(4) 中国の大学生女子の自己受容、不安尺度得点 (Table11)

自己受容においては、尺度Ⅰについては、F地位が最も高く、次いでAF地位、A地位、DM地位、M地位、D地位の順であるが、D地位とAF地位との間のみ有意な差があった。

尺度Ⅱについては、F地位が最も高く、次いでAF地位、A地位、M地位、DM地位の順であり、最も低いのがD地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差

Table11 各同一性地位における自己受容、不安尺度得点(中国の大学生女子)

		同一性地位						同一性地位間の差										
		人数	A	AF	F	M	DM	D	A/M	A/DM	A/D	AF/DM	AF/D	F/DM	F/D	M/DM	M/D	DM/D
			26~31	62~68	16~17	18~21	270~286	20~23										
自己受容	Ⅰ. 肯定的な自己認知に対する自己受容	M SD	4.09 0.89	4.13 0.75	4.22 0.88	3.92 0.64	4.02 0.75	3.68 0.89				*						
	Ⅱ. 否定的な自己認知に対する自己受容	M SD	3.78 0.84	4.05 0.77	4.26 0.61	3.77 0.71	3.65 0.83	3.08 0.89		**	**	**	**	**		**	**	
	Ⅲ. 肯定的な自己認知に対する自己拒否	M SD	1.46 0.58	1.49 0.54	1.41 0.45	1.54 0.45	1.73 0.66	2.32 0.72		*	**	**	**	**	**	**	**	**
	Ⅳ. 否定的な自己認知に対する自己拒否	M SD	2.06 0.91	1.82 0.66	2.06 0.77	1.95 0.60	2.27 0.79	3.11 1.09			**	**	**	**	**	**	**	**
不安	Ⅰ. 成長不安	M SD	4.81 0.35	4.55 0.56	4.75 0.69	4.41 0.66	4.27 0.56	3.83 0.74	*	**	**	**	**	**	**	**	**	**
	Ⅱ. 抑制不安	M SD	2.42 0.77	2.30 0.66	2.30 0.68	2.44 0.79	2.93 0.72	3.68 0.79		**	**	**	**	**	**	**	**	**

* P<0.05 ** P<0.01

があり、さらに、DM地位は、AF地位、F地位との間にも有意な差があった。

尺度Ⅲについては、D地位が最も高く、次いでDM地位、M地位、AF地位、A地位の順であり、最も低いのがF地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差があり、さらに、DM地位は、AF地位、A地位との間にも有意な差があった。

尺度Ⅳについては、D地位が最も高く、次いでDM地位、A地位とF地位、M地位の順であり、最も低いのがAF地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差があり、さらに、AF地位とDM地位の間にも有意な差があった。

不安においては、成長不安については、A地位が最も高く、次いでF地位、AF地位、M地位、DM地位の順であり、最も低いのがD地位であった。D地位は他のすべての地位との間に有意な差があり、さらに、DM地位は、A地位、AF地位、F地位との間にも有意な差があり、また、A地位とM地位の間にも有意な差があった。

抑制不安については、D地位が最も高く、次いでDM地位、M地位、A地位の順であり、最も低いのがAF地位とF地位であった。D地位とDM地位は他のすべての地位との間にそれぞれ有意な差があった。

考 察

以上の結果に基づいて、日中の大学生の不安、自己受容、自我同一性について考察していく。

まず、不安についてみると、日中の大学生共に成長不安が強く、抑制不安が弱いことから、いずれも、基本的には健康な人格発達を遂げていることがわかり、彼等の人間的成長の可能性の豊かさを窺わせる。また、成長不安と抑制不安の相関がなく ($r = 0.00 \sim 0.06$)、相対的に日本の大学生では成長不安がより強く、中国の大学生では抑制不安がより弱いことから、日本の大学生の場合は、成長不安がうまく働いて人間的成長が促されることが期待され、中国の大学生の場合は、抑制不安に煩わされずに人間的成長が進むことが期待される。一方、日本の大学生の方が中国の大学生よりも不安水準が高いことから、日本の大学生の方が、普段の生活の中で不安に陥ったり、悩んだりしやすいのではないかと考えられる。その場合には、相談することができたり、支えてくれたりする人物が近くにいるかどうか重要な問題となろう。一方、中国の大学生の場合には、種々の問題に対して落ち着いて力強くぶつかっていくことができるのかもしれない。

不安項目についてみると、日中共に大学生男子は女子よりも「一生、平均的な人間で終わってしまうのは、がまんできない」という項目が高く、女子は男子よりも「つまらないことで、くよくよ悩んでしまう」という項目が高くなっている。男子の野心の強さと、女子の些細なことを気にする心性が現れている。しかし、日本の大学生女子の場合は、「自分にもっと自信が持てるように、がんばらねばと思っている」傾向が男子よりも高く、「将来、何か恐ろしいことが起きそうな気がしてたまらない」、「いつも病気ではないかと心配ばかりしている」、「不安にかられて、いてもたってもいられないことがある」という傾向は男子よりも低いという結果が得られている。日本の大学生女子の積極的で、

前向きの姿勢が窺われる。

日中間で不安項目を比較すると、成長不安の「なにか目標に向かって前進していないと、落ち着かない」、「将来、夢や理想が実現できるかどうか気がかりだが、とにかくやってみよう」、「将来、満足のいく仕事ができるかどうか心配だが、とにかく努力してみたい」、「まだまだ努力が足りないのでは、と心配になる」、「友達やライバルに負けると思うと、くやしくてたまらない」という項目では日本の大学生の方が中国の大学生よりも得点が高く、自己成長を望む傾向が強いように思われる。しかし、「将来やりたいことができるようになるためには、今のんびりしてはいられない」という項目では日中間で得点が逆転し、日本の大学生の得点が低くなっている。これは、日本の大学生の成長願望と実際行動とのギャップを示しているのではないだろうか。将来の夢や目標に向かって努力したいという気持ちは願望のままで止まり、現実にはのんびりとした大学生活を送ってしまっている。このことが、日本の大学生の方が強く感じている抑制不安の「何をしても失敗しそうで、いつも心配だ」、「将来、何か恐ろしいことが起きそうな気がしてたまらない」、「わけもなく不安になることが多い」、「つまらないことで、くよくよ悩んでしまう」、「不安にかられて、いてもたってもいられないことがある」、「なにか責任のある役割を任せられるのは、不安で逃げ出したいようになってしまう」といったことと相互作用し合うと、日本の大学生の中に不健康な心性を育ててしまう恐れがある。成長願望を現実の行動や生活に結びつける手立を考えなければならない。

次に、自己受容についてみると、中国の大学生は、日本の大学生よりも自己受容の傾向が高くなっている。この結果は高木・張 (1990b) の結果とほぼ一致することがわかる。中国の青年は日本の青年よりも高い自尊感情を持っていることは、既にわれわれの研究 (高木・張, 1989, 1990b) によって明らかになっている。したがって、中国の青年は自分に自信を持つと同時に、前向きに自己を受け入れていることがわかる。日本と中国の大学生で大きく違うのは、「人から非難されると、自信を失う」、「何かで失敗すると、気分が落ち込んでしまう」、「自分の才能や努力に限界を感じた時、自分を価値のない人間だと思う」、「人に迷惑をかけたとき、自分をダメな人間だと思う」の4項目で構成されている尺度Ⅳである。これらの項目に対して、日本の大学生はどちらかといえば自分に当てはまると回答しているのに対して、中国の大学生は自分に当てはまらないと回答している。ここには、日中大学生の自我強度の違いや、価値観の違いが現れているものと考えられる。すなわち、中国の大学生は個人主義的傾向が強く、他者の評価に影響されずに自分の考えを押し進める。また、一度や二度の失敗で精神的に挫折することがない。一方、日本の大学生は他人の評価を気にし、他者の支えを必要とする。また、精神的にひ弱で、失敗するとめげてしまいやすい。

また、自己受容と不安との関連についてみると、日中、男女共に、抑制不安の方が成長不安よりも自己受容との関連が強いことが分かる。特に、自己受容尺度Ⅳと抑制不安との結びつきが強い。否定的な自己に対する拒否が強いと抑制不安が強くなり、青年の人的成長の障害となる。そういう意味で、否定的自己を拒否せず、受容することが大

切であろう。

最後に、同一性地位をみると、「権威受容地位」と「同一性達成-権威受容中間地位」は日本の大学生よりも中国の大学生の方が多い。一方、「積極的モラトリアム地位」や「同一性達成地位」、「同一性拡散地位」は日本の大学生の方が中国の大学生よりも多い。このように中国の青年の特徴として、あまり危機を経ることなしに、自らの自己投入を行っているようである。これは、小学生の時から理想教育によって、確固とした人生目標が中国の青年の中に育てられているからであろう。自我同一性地位と不安の関連については、日中大学生男女共に、「同一性拡散地位」の者は、他の地位の者と比べて有意に成長不安が低く、抑制不安が高い。また、「同一性達成地位」の者は、他の地位の者と比べて有意に成長不安が高い。自我同一性の面からも、抑制不安は青年の人間の成長の障害になり、成長不安は人間の成長を促進するといえよう。

[謝辞]本研究の実施にあたっては、天津師範大学沈徳立教授、雲南師範大学趙東春副教授、青海師範大学洪建中講師、同趙新華助教、曲阜師範大学井維華助教、聊城師範大学李先峰助教、横浜国立大学依田明教授、筑波大学吉田富二雄助教、大正大学沢崎達夫助教、東京学芸大学佐野秀樹助教、神戸大学齊藤誠一助教、大阪教育大学瀧野場三講師に多大な御協力をいただきました。記して謝意を表します。

また、中国での調査の実施について御指導いただきました北京師範大学発展心理研究所所長・教授林崇徳博士に深く感謝致します。

引用文献

- 福井康之 1980 青年期の不安と成長 有斐閣
- 加藤 厚 1983 大学生における同一性の諸相とその構造 教育心理学研究, 31, 292-302.
- 加藤隆勝 1964 青年期 誠信書房
- 高木秀明・徳永由紀 1989 自己受容に関する一研究——測定尺度作成の試み、及び自尊感情等との関連について—— 日本教育心理学会第31回総会発表論文集, 227.
- 高木秀明・張 日昇 1989 青年期の心理的特徴に関する日中比較研究(1)——自尊感情、独立意識、及び対人態度について—— 日本心理学会第53回大会発表論文集, 75.
- 高木秀明・張 日昇 1990a 大学生の社会認知に関する日中比較研究 横浜国立大学教育学部教育実践研究指導センター紀要, 6, 177-187.
- 高木秀明・張 日昇 1990b 日中青年の自己意識の発達に関する比較研究 横浜国立大学教育紀要, 30, 21-43.
- 高木秀明・張 日昇 1990c 日中青年の親子関係に関する比較研究——その発達差、および自己意識との関連—— 対人行動学研究, 9, 17-28.
- 高木秀明・張 日昇 1992 親子関係、友人関係と自我同一性の関連に関する日中青年の比較研究 横浜国立大学教育学部教育実践研究指導センター紀要, 8, 167-188.

- 津留 宏・西平直喜 1968 現代青年の悩み 大日本図書
- 山本誠一 1992 青年期における不安の二側面に関する実証的検討 心理学研究, 63, 8-15.
- 依田 新 1963 青年心理学 培風館
- 張 日昇・高木秀明 1989a 青年期の心理的特徴に関する日中比較研究(2)——自尊感情に対する独立意識及び対人態度の関連について—— 日本心理学会第53回大会発表論文集, 76.
- 張 日昇・高木秀明 1989b 大学生の宗教態度と宗教観に関する日中比較研究 横浜国立大学教育紀要, 29, 121-135.
- 張 日昇・高木秀明 1989c 大学生の「生き方」に関する日中比較研究 対人行動学研究, 8, 1-10.
- 張 日昇・高木秀明 1991 日中青年の友人関係に関する比較研究——その発達差, および自己意識との関連—— 横浜国立大学教育学部教育実践研究指導センター紀要, 7, 123-142.
- 張 日昇・高木秀明 1993 中日大学生価値観的比較研究 北京師範大学学報(社会科学版) 1993年第1期, 22-34.

付 録

不安測定項目

<日本語>

次にいくつかの短文が書いてあります。それぞれの短文を読んで、あなた自身にあてはまるところに1つ○をつけて下さい。

(回答は「全然そうではない」、「そうではない」、「どちらかといえばそうではない」、「どちらかといえばそうだ」、「かなりそうだ」、「まったくそのとおりだ」の六肢択一)

尺度I 成長不安

1. 手のとどきそうでとどかないものをねらうのは、不安だが、やりがいのあることだ。
2. なにか目標に向かって前進していないと、落ち着かない。
3. 将来やりたいことができるようになるためには、今のんびりしてはいられない。
4. 逃げ出したくなるようなことでも、やるべきことはやらねばならない。
5. 一生、平均的な人間で終わってしまうのは、がまんできない。
6. 将来、夢や理想が実現できるかどうか気がかりだが、とにかくやってみていくしかない。
7. 将来、満足のいく仕事ができるかどうか心配だが、とにかく努力してみたい。
8. 自分にもっと自信がもてるように、がんばらねばと思っている。
9. まだまだ努力が足りないのでは、と心配になる。
10. 友達やライバルに負けると思うと、くやしくてたまらない。

尺度II 抑制不安

1. 何をしても失敗しそうで、いつも心配だ。
2. 将来、何か恐ろしいことが起きそうな気がしてたまらない。
3. 自分の考えを主張すると、人から嫌われてしまいそうで心配だ。
4. わけもなく不安になることが多い。
5. つまらないことで、くよくよ悩んでしまう。
6. 不安でたまらず、何も手につかないことがよくある。
7. 何かやろうと思いたっても、できそうもない気がしてすぐやめてしまう。
8. 新しいことをするのは心配でたまらないから、できれば避けたい。
9. いつも病気ではないかと心配ばかりしている。
10. いつも緊張していてリラックスできない。
11. 人と会うとき、自分が何か悪い印象を与えるのではないかと心配だ。
12. 不安にかられて、いてもたってもいられないことがある。
13. 自分の望むことは、なぜか実現しないような気がしてしかたない。
14. 時間がたつにつれて、何か恐ろしいことが起きそうでこわくなる。
15. 何か責任のある役割を任せられるのは、不安で逃げ出したくなってしまう。

〈中国語〉

請認真閱讀下面的短句，根據自身的判斷，選擇與自己適合的一種評分標準并用“○”圈起來。

(評定使用“完全不是這樣”，“不是這樣”，“大体不是這樣”，“大体是這樣”，“是這樣”，“完全是這樣”六級評分標準)

尺度I 成長不安

1. 对要做又怕做不到的事情，感到不安，但還是覺得值得去做。
2. 面向某一目標，只要不得進展，就感到不踏實。
3. 為了將來要做的事情能得以實現，当前不能怠慢。
4. 即便是想逃避的事情，如果是該做的就一定要做。
5. 不愿作為一个平凡的人而了此一生。
6. 担心將來理想能否實現，但不管如何必須去做。
7. 担心將來能否有滿意的工作，但不管如何想努力去做。
8. 為使自己更有自信，我想就必須去努力。
9. 老担心自己努力的程度是否還不足。
10. 一想到將輸給朋友或競爭對手，就感到難以忍受。

尺度II 抑制不安

1. 不管做什么，老覺着要失敗，經常為此而担心。

2. 老感到將來要發生什麼可怕的事情，為此而不堪忍受。
3. 想主張個人意見，又擔心別人嫌棄自己。
4. 時常毫無原因地感到不安。
5. 經常為一些無聊的事情而煩惱。
6. 經常因不安而無心做任何事情。
7. 想做什麼事情，但又覺得可能做不到而立刻放棄。
8. 因為擔心做新事情，所以能回避就回避。
9. 經常擔心自己是否有病。
10. 經常處於緊張狀態而無法放鬆自己。
11. 見人的時候，老擔心自己會不會給對方留下不好的印象。
12. 經常感到坐立不安。
13. 因自己的期望不知為何難以實現而束手無策。
14. 隨著時間的推移，感到好像要發生什麼可怕的事情，為此而恐懼。
15. 當被指排某種負有責任的任務時會感到不安，老想逃避。